

研究実施責任者	プロジェクト名	期間	配分額(円)
看護学部・教授 竹崎 久美子	医療機関における新型コロナウイルス感染症 患者の看護の対応と今後の備え	R3-R4	782,200
研究概要			
<p>2020年から世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19 とする）は、高知県にも同年2月29日以降、2021年5月5日現在で1,097名の陽性者が確認された。陽性者受け入れを行った医療機関をはじめ、感染の可能性がある患者を受け入れた医療機関においても、緊急の感染防止対策として感染病棟の編成、ゾーニング、職員の教育などを行い、自分たちの感染防護を行いつつ患者の治療・ケアにあたった。</p> <p>こうした県下の医療機関では、どのような課題に直面し、どのように対策したのであろうか。中でも看護師は、治療が未確立な現状の中、症状緩和から身の回りの世話、面会制限や感染してしまったことへの葛藤など様々な精神的苦痛を抱える患者の精神的ケアに至るまで、多くの課題に直面しながら、日々の業務にあたってきた。</p> <p>そこで本研究では、高知県内で実際に患者を受け入れた医療機関で勤務する感染看護のスペシャリスト、または感染対策を主に担当した看護管理者にインタビューを行うことを通して、看護がどのような課題に直面し、対応したかを明らかにし、今後の備えにつなげることを目的とした。また同時に、国内の実態調査、課題研究、専門雑誌の掲載記事などから、コロナ禍において看護界がどのような課題に直面し、どのように対応したかについて明らかにしようと考えた（令和3年5月申請時点）。</p>			

研究 成 果

令和3（2021）年5月の本研究申請時点では感染拡大から1年以上が経過し、第4波が終息、その終息を待って患者受け入れを行った医療機関や感染対応の担当者にインタビュー調査を行うことを検討していた。しかしその後、8月には第5波、令和4年に入ってから第6波から第8波にかけてそれまでの数十倍の感染拡大が繰り返された。

そこで今回は、臨床の実践家のインタビューは断念し、2020年1月から2023年1月までの間に公表された文献を精査することとした。

分析方法は、医中誌WEBを使って文献検索（「コロナウイルス感染症」、「COVID-19」、「看護文献」）を行い、Text Mining Studio for WindowsとKH Coder3を活用したテキストマイニングの手法で分析した。

その結果、感染拡大前半では2,956件中1,881件が商業専門雑誌を中心とした専門雑誌に掲載された解説論文であり、主には基本的な感染対策や看護管理者向けの組織運営に関する対策などが解説されていた。2021年後半からは学術集会などでの発表（会議録）909件、原著論文も107件見られたが、原著論文の多くは看護基礎教育において、通常の対面講義や学内演習、臨地実習などが行えない現状に関して、ICTを活用した教授法が様々な工夫されたことに関する報告であった。一方、学会発表では、臨床現場において、自部署での体験のふりかえりや対応の工夫、家族への関わり、スタッフの心身の健康に関する調査などが行われていた。看護職の精神的なストレスなどに関する文献では、病棟看護師に関する文献が83件に対して、病棟看護師以外の看護職、すなわち保健師や訪問看護師、療養施設に働く看護師を対象とした文献は解説を含めても12件と少なく、実態が明らかにされていない現状が伺えた。

2023年5月から感染症法上の扱いが5類に移行したが、9月現在第9波が持続している。今回実施できなかった研究課題については今後も継続して研究を続ける予定である。

成 果 物 等

【学会発表】

- ・小原弘子、神家ひとみ、中井あい、田井雅子、竹崎久美子（高知県立大学看護学部）：テキストマイニングを用いた新型コロナウイルス感染症に関する看護文献の傾向についての分析，日本災害看護学会第24回年次大会（示説発表），2022.